

支部組合員アンケートの概要について

支部保健事業検討委員会において、見直し検討にあたっての参考とするため、「公立学校共済組合群馬支部保健事業に関するアンケート」を実施し、事業の利用状況、新規事業や既存事業等に対する組合員ニーズの把握を図りました。

1 実施結果

抽出数：2, 916人（29歳以下 436、30歳代 685、40歳代 768、50歳以上1,027）

※年齢別支部組合員数を勘案し無作為に抽出

回答者：1, 999人（29歳以下 289、30歳代 385、40歳代 538、50歳以上 785）

回答率：68.6%（29歳以下66.3、30歳代56.2、40歳代70.1、50歳以上 76.4）

回答結果：別添「保健事業に関するアンケート集計表」のとおり

2 アンケート結果の概要

(1) 既存事業の利用状況について

- ・ 利用状況を聞く設問では、「無回答（≒利用しなかった）」が全体の約2割を占め、特に29歳以下では約75%と、若年層向けの事業の導入が優先すべき課題であることが明らかになりました。

(2) アウトソーシング事業（福利厚生パッケージサービス）の導入について

- ・ 約6割が導入を希望しており、全年齢層で5割を上回りました。特に29歳以下、30歳代では約7割の者が導入を希望しています。
- ・ 導入希望者の7割超が「旅」のカテゴリに一番魅力を感じ、既存事業の拡充に関しても、人間ドックに次いで、「宿泊補助」に関する要望が多くなっています。自由記載においても、去来荘に代えて、身近で・安く・気軽に利用できる保養施設を求める声が多くありました。

(3) アウトソーシング事業（健康ポイント事業）の導入について

- ・ 導入希望者がやや優勢でしたが、希望しない者も約4割あり、両者が拮抗する状況でした。
- ・ 若年層の希望が比較的高く、50歳以上男性・30歳代男性、50歳以上全体では「希望なし」が「希望あり」を上回っています。
- ・ 希望理由としては、商品交換に魅力を感じている者が最も多かった一方で、「健康な生活習慣や運動習慣を身につけられる」「運動継続の励みになる」等の理由で希望する者も多くありました。
- ・ また、希望しない理由としては、「忙しくて活用できるとは思えない」「入力が面倒」などの意見が多くありました。

(4) 人間ドック事業について

- ・ 既存事業のうち、「人間ドック」を利用した者は、全体で7割超と他の事業を圧倒しています。年代別では50歳以上で9割超、40歳代で約9割、30歳代で6割超でした。
- ・ 「人間ドックの補助増額」を希望する者が約6割と最も多く、年代別では40歳代・50歳以上で約7割、30歳代で6割弱と事業対象世代の希望が非常に多くなっています。
- ・ 一方で、自由記載欄には、特定事業の拡充に財源を集中するのではなく、多様なニーズに応えられるような事業の構成にすべきとの意見が複数ありました。

(5) その他の新規事業について

5つの事業を例示して、新規導入について希望を尋ねました。

- ・ 1位は「予防接種助成」（約6割）で全年齢層から広く希望があり、女性の希望（66%）が男性（53%）を13ポイント上回りました。
- ・ 2位の「リゾート施設利用補助」は5割強で、年代別に見ると若年層の希望が高く、20歳代で1位の予防接種を上回り、30歳代ではほぼ同率でした。
- ・ 3位は「観劇事業」（約4割）で、年代間の差は比較的少ないが、女性の希望が男性を約20ポイント上回りました。
- ・ 4位は「スポーツ施設利用補助」（3割強）で、30歳代以下で約4割、40歳代以上で約3割と、若年層の希望が高くなっています。
- ・ その他の意見では、自己啓発のための書籍購入や資格取得費用の補助、テーマパーク、スポーツ観戦、映画、コンサートのチケットや美術館等の施設利用補助などを希望する回答が多くありました。